

こどもの読書週間

4月23日～5月12日

子どもたちにもっと本を、子どもたちにもっと本を
読む場所をとの願いから、
「こどもの読書週間」は1959年(昭和34年)に
誕生しました。もともとは、5月5日の「こどもの日」を
中心とした2週間(5月1日～14日)でしたが、
子どもの読書への関心の高まりを受けて、
「子ども読書年」である2000年より現在の
4月23日(世界本の日・子ども読書の日)
～5月12日に期間を延長しました。
幼少のときから書物に親しみ、読書の喜びや
楽しみを知り、ものごとを正しく判断する力を
つけておくことが、子どもたちにとってどんなに
大切なことか……。
子どもに読書を勧めるだけでなく、大人にとっても
子どもの読書の大切さを考えるとき、
それが「こどもの読書週間」です。



「あいことばは ヒ・ラ・ケ・ホ・ン!」

子どもたちが勢いよくガバッと本を開く姿を思い浮かべながら考えました。
本の中には出会いがあり、何度も会いに行きたくなる心を動かすなにかがあります。
多くの子に本を手にとって そんな体験をしてほしいと願いを込めて。と標語の作者から
言葉がありました。

4月30日は、「図書館記念日」です。
そこで、図書館にまつわる児童書・絵本を紹介します。



タイトル	著者	出版社	請求記号
図書館のひみつ	アサミネ 鈴/まんが	Gakken	O1
絵で見る日本の図書館の歴史	堀切 リエ/文	子どもの未来社	O1
としよかんライオン	ミシェル・ヌードセン/作	岩崎書店	ELト
はたらく図書館	矢萩 多聞/文	創元社	Eハ
としよかんへいこう	斉藤 洋/作	講談社	Eト

毎年
4/2

は国連の定めた世界自閉症啓発デー

4/2～4/8は、発達障害啓発週間

国連総会(H19.12.18開催)において、カタール王国王妃の提案により、毎年4月2日を「世界自閉症啓発デー」とする事が決議され、全世界の人々に自閉症を理解してもらう取り組みが行われています。日本でも、自閉症をはじめとする発達障害について、広く啓発する活動を行っています。

毎年、世界自閉症啓発デーの4月2日から8日を発達障害啓発週間として、ラウンドマークのブルーライトアップ等の活動を行っています。(癒し・希望・平穩を表す「青」を自閉症啓発のシンボルカラーとしています。)

自閉症をはじめとする発達障害について知っていただくこと、理解していただくことは、発達障害のある人だけでなく、誰もが幸せに暮らすことができる社会の実現につながるものと考えております。

※尾島図書館では、3月29日から、

自閉症・発達障害の理解促進につながる資料を幅広く集めた特設コーナーを設けました。



もしかして発達障害 ADHD・ASD, 「うまくいかない」がラクになる

司馬 理英子／著 主婦の友社

2025年「本屋大賞」4月9日発表!!

本屋大賞とは、全国の書店員さんが自分で読んで「面白かった」「お客様にも勧めたい」「自分の店で売りたい」と思った本を選び、投票して決める賞です。

本屋大賞/ミネート作品

「アルプス席の母」	早見和真／小学館
「カフネ」	阿部暁子／新潮社
「禁忌の子」	山口未桜／東京創元社
「恋とか愛とかやさしさなら」	一穂ミホ／小学館
「小説」	野崎まど／講談社
「死んだ山田と教室」	金子玲介／講談社
「spring」	恩田陸／筑摩書房
「星を編む」	凧良ゆう／講談社
「生殖記」	朝井リョウ／小学館
「成瀬は信じた道をいく」	宮島未奈／新潮社
「人魚が逃げた」	青山美智子／PHP 研究

4月の休館日

7日(月) 14日(月) 21日(月) 25日(金) 28日(月)